

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間: 2021/01/07~2021/02/05)

1. 勉学の状況

オリエンテーションを経て講義が始まりました。現時点で春学期には4つのコース (Components of Cultural Multiplicity, Gender and Finnish Culture and Society, Ethics in Intercultural Interaction, Approaches to Special Education in Finland) を取っていて、そのうちの2つに今は取り組んでいます。Web course の授業体系は様々ですが、私が今取り組んでいるのは「シラバスにある資料(教科書や論文)から興味のあるものをいくつか読んでレポートを作成するもの」と、「コースの初回と最終回にオンラインのミーティングに参加し、その間ムードルで課題に取り組む」ものです。千葉大学の授業同様、オンラインの環境は家で自由に学習できる利点の反面、課題をこなすためいかに自分でスケジュールを立て、自分で調べ、自分から質問するなど主体性がとても大切だと改めて痛感しています。

留学が始まるにあたり苦労したことは、大学のアカウントを作成して電子的サービス(ムードルや大学メールなど)を起動させることと、オンラインミーティングでのコミュニケーションです。前者は自分で調べてもうまくできないことが多くあり、それをどう誰に相談していいかわからずとても不安でした。東フィンランド大学は担当のチューターをつけてくれるのでその方に聞いたり、オリエンテーションでどこに相談すればいいかを知ることができたので、不安を解消できメールでたくさん質問して一個ずつ解決しました。後者は画面越しで反応を感じ取りづらく緊張することによって、英語を聞き取ることで精一杯で全く発言できないことです。その環境的な要因の他に、自分のリスニング・会話力の低さと人前で話すことに慣れていないことを知ることができました。これをどう解決するか模索中ですが、課題に取り組むほかに家で英語をたくさん聞いたり発音したり、できるだけ多く英語に触れることを意識しています。

授業はまだ始まったばかりですが、これから様々な国の学生(ヨーロッパの学生が多く感じます)と議論したり、資料を読んでレポートをいくつか書きます。きちんと課題をこなせるか不安がありますが、英語の論文からいろいろな発見をしたり、多様な学生たちの意見を得られることが楽しみです。英語能力を向上させることと、フィンランドや他の留学生の国の文化や社会について、できるだけ多くのことを吸収したいです。

1. 生活の状況

生活面は今までと特に変わったことはありません。家にずっといるので、気持ちを切り替えてモチベーションを保つよう意識しています。上記のような不安がある中、今までと同じような生活の中で留学ができることはオンラインの一つのメリットだと思います。これは、私は実家にいるので家族に感謝することですが、本来の留学ならまず現地での一人暮らしに慣れる必要があるところを、今はそのストレスがありません。また、留学生課の方や学部の先生などすぐに相談できる方が近くにいるという安心感もあります。なので勉強そのもののことだけを考え、集中することができます。いずれ現地に渡航できたとしたら、留学先での勉強には多少慣れていて、現地での生活に集中できストレスが少なくなると思います。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2021/02/06 ~2021/04/23)

1. 勉学の状況

春学期の授業が始まり約3か月が過ぎました。現在は「Components of Cultural Multiplicity (以下 CCM)」と「Approaches to Special Education in Finland (以下 ASEF)」のふたつのコースを受講し終え、最後に後者講義のまとめレポートの作成をしているところです。これらは課題の期限は決まっているものの、主に自分のペースで進めていく授業体系でした。CCMでは、コースの初めと終わりの授業にオンライン上のミーティングがあり、同じ授業を取る留学生らと文化についてやコースの感想について議論しました。周りの留学生は英語が流暢で話を聞くことで精いっぱいだったため、自分ではほぼ話すことができませんでした。またこれは留学として初めてとるコースで、はじめは文化や民俗学の知識がないことと、レポート作成(ましてや英語)の経験があまりないことがとても不安でした。初めのミーティングで周りの学生のレベルを見て自分と比べて自信をなくしたことと重なり、コース初めの時期に課題に取り組むことが怖くなりました。ですが、その不安や自分ができないこと、知識がないことを一度すべて認め、当時の時点でできそうなことからやりました(具体的には提示された教科書の一つのテーマだけをまず読んでみる、それをもとに課題である Moodle 上の議論につたない英語で参加するなど)。本当に少しずつですが、読む論文の長さや数を増やしたり、書く文章を長くしてみたり、その結果最後の長文レポートをなんとか作成することができました。二つ目の ASEF は完全オンデマンド型で、自分で動画を視聴し資料を探して読み、レポートを4つ作成するものです。CCMとは異なり周りの学生と議論する機会がほぼないコースですが、興味があったフィンランドの教育に関するものなので比較的前向きに受けることができました。CCMでレポートの作成に少し慣れたので、英語の表現により注意したり、参考にする文献の数を増やしたりと、また少しずつですができることが増えたと思います。当初は4つのコースを受講する予定でしたが、一つずつこなしていくことで精いっぱいいまのところ2つになっています。同じような状況にいて不安を共有したり、教えてもらったりできないことが私にとって思ったよりも難点となりましたが、始まった当初よりもできることが増え、千葉大学で学んだこととは別の分野の知識を得ることができたのでよかったと思います。

2. 生活の状況

はじめは家だけで課題に取り組んでいたのですが、それでは集中力が持続しないことによって効率が悪いことに気が付いたので、たまに近所のカフェや大学の図書館で勉強するようになりました。移動したり普段飲まないドリンクを飲んだりすることが良い気分転換となります。英語を使う場面が勉強でしかない、それで息詰まった場合

に留学の勉強をやりたくなる時があります。英語を使うこと自体が嫌いになるとモチベーションの低下につながるので、課題は時間的にも精神的にも無理せず取り組み、海外映画・ドラマを見たり、洋楽やラジオを聞いたりして”英語をつかうぞ!”という意識をしなくてもいい触れ方を多くしています。以前と同様、食事や睡眠をきちんと取れていて、生活に関するストレスが集中力を保てる環境のこと以外ほとんどなく勉強関連に集中できて、それがオンラインで留学することのメリットだと改めて感じています。また、始まった当初落ち込んでいた時に、留学生課の方やゼミでお世話になった先生、親や友達に話を聞いてもらって気持ちの整理ができたので、同じ状況の人が周りにいなくても安心です。春学期の期間はもう少しですが、自分にできることをやり切りたいと思います。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間:2021/04/24 ~ 2021/05/31)

1. 勉学の状況

5月で春学期が終了しました。今学期では通算2科目を受講し、どちらも単位を取ることができました。この留学で、多文化共生やフィンランドの特別教育について学び、新たな視点から日本についてよく調べ考えました。前者でいうと、経済の拡大や人の移動が盛んになる中で様々な人が日本にいますが、「日本人」とは誰のことなのかについて今まで考えたこともありませんでした。民族的な視点（文化や言語、宗教など）、人種の視点、国籍の視点とほかにももっといろいろな切り口があることを、資料を読みほかの学生との議論することで学びました。今後差別の問題や共生について考える際、これらの視点を活かしたいと思います。また後者では、フィンランドの特別教育を学ぶと同時に、比較検討するために日本の特別教育や教育制度についても調べました。フィンランドと日本では、人口が20倍近く違うことや現行の制度が違うことから、一概に比較することはできませんが、今まで日本で16年間教育を受けてきた私にとって、フィンランドの教育方針や学校で行われることで新鮮なことがたくさんありました。真似したいと思うことや、逆に日本の教育の良いところも分かりました。このように、始めて学ぶことや日本について見つめなおすことを通して、知識が増えただけでなく当たり前を見直すための視点や考え方を習得することができました。オンラインでこれら2科目を深く学ぶことができ、とてもいい経験になりました。

2. 生活の状況

最終月になってようやく授業を受けることや英語でのレポートの書き方などに慣れてきました。そうすると、余裕のある時間にもっとほかのことを調べることができたり、英語を楽しく勉強することに費やすことができて、とても充実した一か月を過ごすことができました。